

会議・視察報告

2017韓国東北亜経済学会に参加して

ERINA 調査研究部研究主任

穆堯芊

2017年2月9～10日、韓国ソウル市で開催された2017韓国東北亜経済学会に参加し、発表を行った。韓国東北亜経済学会は、韓国の大学に所属する研究者を中心に設立された学会であり、北東アジア経済などについて研究・交流を行っているが、その一環として毎年、学術研究大会を開催している。日本の北東アジア学会とは協力関係にあり、学術大会の際に会員の相互派遣などの研究交流を行っており、筆者は、北東アジア学会の会員として昨年、学会の論文賞を受けたことから、今回、学会の派遣により参加した。

2017韓国東北亜経済学会は、ソウル市中心部にある西江大学で開催された。日本の学会と異なり、韓国の経済関係の学会は、毎年同じ期日・場所で共同開催される。今回も経済に関連する55の学会が「2017 Korea's Allied Economic Associations Annual Meeting」として西江大学で同時に開催された。受付では、各学会が開催される具体的な時間や場所を記した資料が配られ、各学会の会員はどの学会の報告も自由に聞くことができるのは大きなメリットである。

本学会は2月10日の午後には開催され、合わせて16の報告が行われた。テーマは北東アジア各国の経済を中心としながら、中国に関連するものが多かった。日本からの報告は4つで、筆者も含めて北東アジア学会の派遣会員によるものは3つであった。1人あたりの報告時間は10分、討論5分と質疑応答5分で、限られた時間の中で自分の研究をわかりやすく説明することが求められた。発表と討論には韓国語・英語・日本語・中国語が使われ、北東アジアらしい学会であった。中国語が使え韓国の研究者が急速に増えているという。

筆者は「『一帯一路』政策の中国東北地域への影響」について報告した。「一帯一路」は中国の国際イニシアティブであると同時に、国内の地域経済に大きな影響を与えうる地域政策の側面を持つことを指摘した。「一帯一路」は「経済要素の秩序だった自由な移動、効率の高い資源配置と市場との高度な融合」などを主旨とする総合的な政策ビジョンで、国内諸地域の協力態勢を具体的に言及している。インフラ整備を通じて国内地域間のアクセスを利便化し、経済要素の自由な移動と

効率的な配置を促進して規模の経済や市場競争の働きを強め、持続的な経済成長の実現に寄与するものであろう。また、一体化政策を通じて国民の消費効用を向上させ、内陸部や沿線地域の経済成長を牽引していく発展戦略の側面もあると考えられる。さらに、東北地域において「一帯一路」は国境開発を中心とする国際協力策と、大都市を中心とする国内開発策を結合させた重要な施策である。東北3省は省都や拠点都市などの既存の成長拠点を強化しながら、全国の産業分業に積極的に参加することが求められる。国境都市を中心に北東アジア各国との経済協力を進め、地域の市場・産業ネットワークを充実させながら、北東アジア地域市場に密着した産業構造の形成に取り組む必要があることを指摘し、報告を締めくくった。発表の後には、討論者の先生から中国の経済や政策に関連して幅広い質問を受けた。

ソウルの夜の気温はマイナス10度と寒かったが、学会では有意義で活発な議論が行われ、筆者にとって良い収穫となった。